



TITLE:

追憶文僊草

AUTHOR(S):

菊田, 太郎

CITATION:

菊田, 太郎. 追憶文僊草. 經濟論叢 1940, 51(2): 248-250

ISSUE DATE:

1940-08

URL:

<https://doi.org/10.14989/131416>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

經濟論叢

號二第卷一十五第

月八年五十和昭

哀辭

故財部教授遺影署名及原稿

論叢

支那の農家負債と農地の抵押……………經濟學博士 八木芳之助
水産資源の保全について……………經濟學博士 蜷川虎三

時論

東亞新秩序建設と新國民政府^{の發展性}……………文學博士 矢野仁一

研究

民國初期の兌換券……………經濟學士 徳永清行
自由貿易主義の吟味……………經濟學士 岡倉伯士

記事

財部教授逝く

故財部教授年譜及著書論文目錄

追憶文

神戸正雄 本庄榮治郎 蜷川虎三
木村喜一郎 吳文炳 宗藤圭三
青盛和雄 松岡孝兒 石川興二
黒正巖 藤本幸太郎 谷口吉彦
岡崎文規

附錄

彙報

外國雜誌論題

愚 草

菊田 太郎

前回の御大患の經過に徴し、病氣自體は重くとも、旺盛な氣力を以て克服される事と信じてゐた所、意外に早く薨去せられ、風樹の歎なきを得ない。御十日祭に相當する今日、こゝに短文を草し、足らざりし奉養のせめてもの補としたい。

先生が博覽強記の文字そのまゝ、人間業とは思へぬスピードで、古今東西の典籍を讀破し、その内容を消化、利用されたことは、周知の事實であるが、博識を綜合・驅使する識見に於いて一層偉大でゐられた。例

へば、大學教授の一任務は、各種の意見、知識をそれ／＼適所に位置付け、識見を以て之を統合することゝされ、白石・春臺の所論、孟子・朱子の遺文、スミスマルサスの著述から、新聞の雜報に至るまで、悉く藥籠中の適當な個所に收まり、隨時先生の用を辨じた。

屢々數頁にも互る長い引用は、單なる祖述ではなくて嵐山・叡峯そのまゝを庭園の一部とするにも似た氣宇識見、手腕の現はれである。そして、かゝる高邁な識見は勿論、天授であらうが、一面何か一事物に遭遇するとき、その比較物・對立物を求め、兩者を一層高遠な見地から綜合統一すると云ふ一種の辨證法で、育成せられたらしい。北海道の御話にはハンチングトンのニュー・ファウンドランド論が出、自分がチューネンに熱中すれば、「チーヤが宜しい」と仰しやるので、迂い自分は屢々間誤ついたが、これらは、何れも辨證法の前後を略し、中段のみを示すと云ふ氣の早い御指導であつたと解される。

氣が早いと云へば、先生の識見は、遠く時流を抜く

と同時に之に先んじられ、卒然承はる際には要領を得兼ね、時を経た後漸くにして驚歎、敬服するに至つたことが實に多い。國民の保健・榮養・廢物利用、我が國の自然特に氣候變動と經濟との關係、印度の社會、經濟等々を問題とし、研究されたのが、それであつて日支事變が七月に勃發した昭和十二年には、四月の新學年早々から、演習に代へて、支那の經濟・社會に關する史觀を講義せられた。序ながら、本講義は例によつて大規模で根本的な外、我が儒者の研究成果が驅使されてゐる點、世に比類なきものであらう。

之を好むに如かずと云ひ、格物致知とも聞くが、先生は學問を尊重すると共に愛好され、御専門の統計・經濟は固より、天文・地理・水産・本草・割烹・遁甲に至るまで、究められざるはなかつた外、屢々觀察・實驗し、また終始實踐された。近藤兄は先生の不動金縛り術の實驗に御伴されたさうだが、東大の上野教授を主賓として樂友會館で開かれ、自分も御手傳を兼ね席末に陪した晚餐會では、御祕藏の本草書を展觀され

追憶文

ると同時に、本草學から割出して、前菜からデザートまで全部のコースを精進の洋食とし、都ホテルのコツクを指圖して調理せしめられた。こんな御馳走は、眞に前代未聞たる許りでなく、將來もあり得ないであらう。なほ、これ亦序ながら、先生の御酒は、世に名高かつたが、下戸の自分の見る所では、單に長いだけで、御強くはなかつた。

水産に興味を有せられた關係から、白濱の臨海研究所、或は堺の水族館へ一度行きたいとの御氣持があつたけれども、大患後の御疲勞で、その機會は來なかつた。自分は、支那旅行中、先生に御伴してであれば、これだけ有益且つ愉快であらうと、幾度か思つたが、この希望は永遠に實現し得ない事となつた。嘗て白濱の貝殻の標本を呈し、御病中を支那風物の繪葉書で御慰めした許りであり、今日到着した荷物中の徐家瀝版の太極圖説はもはや詮なし。この上は、先輩の驥尾に附して、先生の遺教擴充に碎身し、業績を以て報恩の微意を現はす外はない。あゝ!!